

などは流失しているものが多くなってきた。

このまま終わってしまうのかなあと考えていたら、滝が出てきた。まず8mナメ滝。そして4m, 8mと間をおいて出てくる。しかし、通過には特に困難はない。

ここを通過するともう源流部である。それとともに岩質が変わる。花崗岩質の沢床であったのが、黒い岩主体となった。第三紀層か。ともかくもう遊歩も終わりに近い。最後の支沢を左に分けて少し進むと、水もなくなる。そのまま10分程

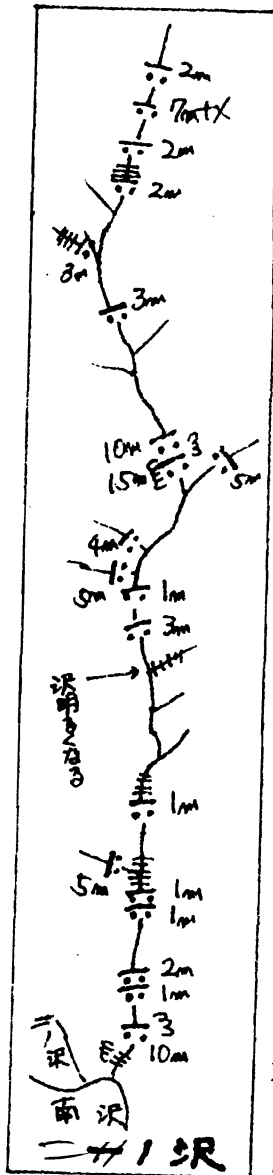
つめ上げて、大笹山やや北方の尾根上に出た。全体に平凡であるが、この地域の沢としては、まあこんなものではなかろうか。

(1)

【タイム】 山本不動尊(8:45)→北沢出合(9:00)→南沢遊歩開始(9:05)→一の沢出合(9:25)→六の沢出合(10:50)→大笹山北方稜線(12:20)

南沢支流 一ノ沢

1986年7月5日



山本不動尊の駐車場で仮眠し、早朝から行動開始。人気のない不動尊境内を横切り、今は荒れ果ててしまった林道を歩いて、25分で一の沢出合に着く。ここで沢に入る。

一の沢の出合は、小さなナメが続く。沢筋は比較的暗く、花崗岩質のため、フリクションがよくきく。すぐに10m滝が出てくる。右岸を直登。一部シャワーとなり、中段ではワールドを探すのにちょっと手間取った。

幸先が良いと勇んで歩きだしたが、このあとは明るい沢筋となって、1~2mの小滝しかでてこない平凡な沢筋となる。おまけに右岸から支沢が合流した後はキイチゴの多いブッシュが沢筋まで茂ってきていて、非常に歩きづらくなった。

やがて再び右岸から支沢が合流する。すると、再び暗い沢筋となり、ブッシュもなくなって歩きやすくなった。

左右に次々と支沢を分けるようになって、いよいよ源流かと思われるころになって、突然目の前に10mの落差をもつ滝

が2つ連続して出てきた。おまけに最初のはハング滝となっている。合流する支沢かと思いきや、これが本流である。とても登れたものではないので、左岸を捲いて上に出る。するとそのうえにまた10m。合わせて左岸を捲く。

あとは小滝こそ出てくるものの、特に問題となるようなところもないままで源頭となってしまった。稜線直下までつめあげてから、三ノ沢の下降に移るべく尾根に上がる。

(記・

[タイム] 山本不動尊(5:55)→一ノ沢出合(6:20)→終了(7:35)

ホ
南沢北ノ沢右俣、
右俣源流左ルンゼ、左俣

1986年8月17日

山本不動尊から30分歩いて二ノ沢出合着。今月初めの台風くずれの大雨で2カ所橋が流されていて、ちょっとトラブった。

ウェディングシューズになってからは、身仕度も簡単。直ちに二ノ沢の遡行に足かる。出合から少し入ったところに4mの滝。左岸を直登して越える。続く4mは、シャワーで直登。これは幸先が良い。

やがて二俣。左俣は暗い樹林帯の中の流れが続き、右俣は明るい伐採地の中の流れとなっている。水量の多い右俣にルートをとる。

しばらくは平凡な流れとなる。1カ所だけヤブのうるさいところがあるが、ごく短い間だけである。

4mのナメ状滝を直登すると、沢はまた暗い樹林帯の中を流れるようになる。同時に、滝が出てきた。まず10m3段。1、3段目は右岸を、2段目は真中を直登する。ホールドは豊富である。そして小滝が続く。

左ルンゼ出合の先にも10m2段の滝がある。水の流れている部分にそって直登するが、水量は少なく、シャワーとはならなかった。ホールドは豊富だが、岩がモロイ部分があった。この先は急傾斜になって、稜線直下まで細々とした流れが続いた。沢としては短いですが、初心者が充分楽しめるなかなか変化に飛んだ沢であった。

尾根上のかすかな踏跡をたどって、581m独標(尾根上の小さなコブ。展望はきかない)に達し、そこから右俣源流左ルンゼの下降に移る。源頭の急斜面を5分ほど下ると、水流が出てくる。右俣を遡行してゆく時、7mの滝があり、岩質か